

「シーガー使って今日も快釣」 鈴木新太郎のワンポイントアドバイス

★鈴木さんのキンメ仕掛けは図にあるとおり、幹糸にナイロン、枝糸にフロロカーボン「シーガー船ハリス」を使うのが特徴。この理由については、

「胴つき仕掛けの枝糸はフロロカーボンのほうが強度はもちろん、張りがあってしっかりエサの存在をアピールし、食いがいいように思えるからです。もう一つ、深場仕掛けは作ってから長期間保存することが多いです。ナイロンは吸水性があるので劣化する可能性もあり、その点ではフロロカーボンのほうが安心です」



▲深場用仕掛けも自作。エサも付けた状態で持参する鈴木さん



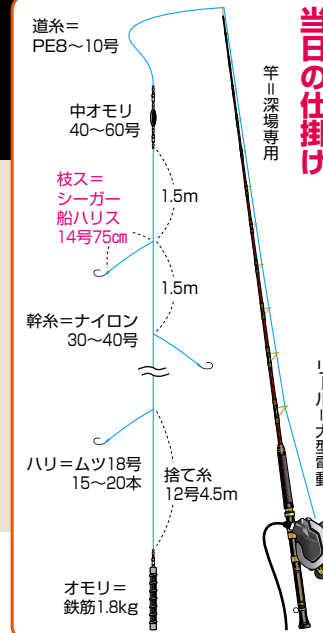
▲右が鈴木さん、左が女良さんの自製仕掛け。鈴木さんの仕掛けはサルカンの位置も同一できれいな仕上がりに。対して女良さんの仕掛けは……

●シーガー船ハリス

▶1.5~14号まで全13種。すべて100m巻きで価格はオープン



▶この日の最大は1.5キロ級だった



当日の仕掛け

リールII大型電動

●初投入。顔は笑っているけど、体はガチガチだったそう



▲終盤はリラックスして釣りを楽しんでいた



▲鈴木さんの投入は見ていると安心感がある
▼女良さんは最高は3枚掛け



▲最後は仲よく良型をキャッチ



◀同船の方も順調に5枚掛け

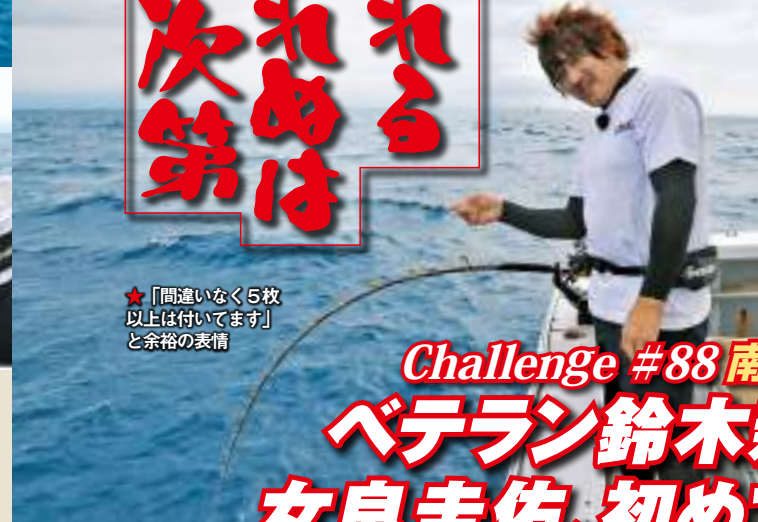
「ホツとしました。これから帰って食べるのが楽しみです」と言う女良さんの傍らで満足げに笑う鈴木さんだった。

その後もコンスタントに釣果を得られ、8投目が終わった10時過ぎに沖揚がり。釣果は0.5、1.8キロを10、27枚とここ最近では上々の釣果。トップはもちろん鈴木さん、女良さんも初めてで12枚なら合格点といえよう。

は反省しきり。4投目が終わったところで船長は新島沖への移動を告げる。潮も予想以上に緩やかで、すでにこのところの釣果を上回る釣れ具合に船長もホツとした表情。1時間弱走ったところで水深400メートル前後のカゲ上がりポイントに到着した。「トンガリ」とも呼ばれるこの釣り場は船長の指示をしっかりと守らないと根掛かりや仕掛け切れを起こす。その分魚影も濃いのだ。ここでの1投目、鈴木さんは1.5キロ級を含め5枚の釣果。さすが新島沖といえるサイズだった。女良さんは4回の投入で慣れたきたのか、投入から取り込む姿も様になってきて、良型3枚の釣果。



★女良さん、初めてのキンメに大感激



釣れる釣れる釣れる

★「間違いなく5枚以上は付いてます」と余裕の表情



▶水深+100メートル以上道糸を送ることもあった
◀本日は鈴木さんが先生、女良さんが生徒役だ



★鈴木さんは万全な仕掛け、食わせるテクニックで多点掛け連発

Challenge #88 南伊豆 下田須崎港出船 ベテラン鈴木新太郎の手さばき 女良圭佑、初めての深場釣り挑戦

●フルシーズン狙える南伊豆のキンメ。この時期は海も穏やかで初心者へのチャレンジにはピッタリ。今回は深場釣りもそつなくこなす鈴木新太郎さんが初挑戦の女良圭佑さんを伴って、南伊豆下田須崎港から出船した模様をお届けする。

未明の下田須崎港にやや緊張した面持ちで現れたのは女良圭佑さん。普段は外房エリアをメインに釣りを楽しんでいる、深場釣りはまったく未経験だという。今回はベテラン鈴木新太郎さんにおんぶにだっこの釣行だった。乗船したのは周年深場のキンメ釣り専門に出船する番匠高宮丸。準備が整った午前3時ごろに港を離れた。まず船長が向かったのは式根島沖、航程2時間ほどで水深450メートル前後に到着。トモに鈴木さん、2番目に女良さんで投入はミヨシから始まった。「緊張してます。とにかく投入できる心配です」と女良さん。鈴木さんのアドバイスを受けながら、パラパラと仕掛けが落ちていき、無事に投入完了。「苦勞して作った仕掛けが何事もなく投入できただけでも満足です」と女良さん。でも勝負はこれからだ。オモリが着底したら、どんな糸を送り出していくのが当地の釣り方。その途中に早くも2人の竿がアタリを伝え、ころ合いを見て船長から巻き上げ合図が出される。慎重にたぐり上げてきた女良さんの仕掛けには1キロ前後のキンメが3枚。これまでのこわばった顔が一瞬で笑顔に変わった。一方の鈴木さんは1キロ級の5点掛けとさすがの腕を披露。2投目は幹糸切れでゼロの女良さんに対し、鈴木さんは7点掛けで、「糸を出し過ぎたのかな」と女良さん